

## 令和6年度 臨時摂津市民図書館等協議会 要点録

日時:令和7年1月29日(水)

10時00分～11時30分

場所:摂津市民図書館 3階大会議室

出席委員: 9名

欠席委員: 1名

事務局: 4名

図書館: 1名

### 案件 1. 第5次摂津市子ども読書活動推進計画策定

#### (1) 第5次摂津市子ども読書活動推進計画策定

(事務局) 一第5次摂津市子ども読書活動推進計画策定について説明一

(委員) アンケート結果について、想像していたよりも「読んでいる」割合が高かった。  
「読んでいる」と答えた児童・生徒になぜ読むのかを聞いてみたいと思った。

(事務局) 想定以上に読んでいる割合が高かったが、中学校に入ると激減する点について、部活動やスマートの普及という要因もあるが本を読むことのハードルを下げる楽しめる取組が必要だと感じた。

(委員) アンケート項目の「本を読む」ことに「マンガ」は含まれているのか。

(委員) 電子書籍は含んでいたのか。

(事務局) マンガは含んでいないが、電子書籍は含んでいる。

(委員) 空いた時間に本を読むため、本を入れる袋を配布した学校もある。

(委員) 給食の時間中に本を読む時間を設けた学校もあると聞いています。今は配布のタブレットがあるが、それで休み時間に本を読むかというとそうでもなく、気づくとゲームをしていたりする。(タブレットでのゲームを)やめさせてしまうのは簡単だが、そこはしっかり教育する事が大切だと思う。

(委員) 本を読むことの大切さをわかっていても、実際家に本がない家庭も多い。学校から図書館への距離もある地域では小学生が1人で行く事もできない。

(委員) マンガについては、本当の漫画と学習につながるマンガを分けて考えていただけれどと思う。読むのが苦手な子どもはマンガを「含みません」で本を手にすることを拒絶してしまう。「聞き方」「認め方」「アプローチの仕方」で読書率は大きく変わっていくと思う。

(事務局) マンガを否定するのではなく、読書へのつながりとしてマンガから入ることもあると考えている。そのため計画の施策にも「図鑑や絵本『など』を含め『人気図書』の収集に努める」と記載した。

(委員) 図書館に行くまでの距離が遠い子どもたち向けに、夏休みに移動販売車の

- (委 員) ような規模でもいいので、移動図書館があればいいと思う。
- (委 員) 定期的に図書館から本を届けてもらって、学校にない本に触れる機会を作つてもらっている。
- (委 員) 読書に親しむ環境づくりの点について、図書館の自習室を見直してもらえないだろうか。年齢に応じて自習室の場所を変えてある図書館が奈良にあったので参考にしてほしい。あと、子どもが使いやすいトイレの整備も進めてほしい。
- (委 員) 不読率について、摂津市のアンケート結果と計画冒頭の記載で数値に開きがあるが、聞き取りの方法が異なるのか。また、摂津市が近隣の自治体に比べて不読率が高いのか低いのかという点で、この計画では(不読率が)高いから低くしていくことを目指すイメージを持っていると認識していいか。
- (事務局) 冒頭の不読率は全国学力学習状況調査の結果からの数値であるが、摂津市のアンケートとは設定が異なっている。また、全国学力学習状況調査で読書に関する調査がなくなったことを踏まえ、摂津市では不読率ではなく読書率を成果指標にすることにした。
- (委 員) 国も読書に関する政策を打ち出しているが、環境整備等にかかる補助金などはあるのか。
- (事務局) 現状ないことを確認している。
- (委 員) 計画としてよくできているが、これに基づいたアクションプランを作成し単年度の数値目標を立てるべきでは。
- (事務局) 中学校の不読率が 51%というのは厳しいと思う。アンケート内容を不読率にフォーカスして学校ごとのデータを出したうえで、不読率が高い学校に図書館からの取組を行うことができるので。
- (委 員) 図書館の貸出券を児童・生徒全員に持たせ授業に取り入れてみてはどうか。
- (事務局) 情報交換をしながら、できる取組を模索したい。
- (委 員) アンケートは毎年継続実施をすべきだ。
- (事務局) 進捗管理は必要と考えているので、実施していく。
- (委 員) 低学年のうちはマンガを読んでいた子どもが、高学年で担任の先生から勧めてもらった小説がきっかけでたくさん多様な読書をし始めた。身近な大人からのおすすめの本は大切。先生から子どもへの取組を実施してほしい。
- (委 員) 計画で具体的な取組内容に踏み込むと、全学校が一律で同じことをする必要がでてしまう。学校それぞれが子ども達の実情に合った取組を実施していく方がよい。
- (事務局) 全部の学校で同じ取組を実施することは難しいので、各校での取組の紹介などをすることは可能。
- (委 員) 人生の中で面白い本や自分にとって本を読むきっかけになった本に出会う

- 機会を学校としてプロデュースしませんかという計画にできればいい。
- (委員) 各々の学校で取り組んでいる内容を発信する方法として、教育委員会のYoutube が活用できるのではないか。
- (委員) アンケートのフィードバックとして、読書率の高かった学校が取り組んでいるテーマを紹介するのもよい。
- (委員) 夏休みに読んだ本の数を競わせるとそれが励みになって、「負けたくない」から「本が好き」に変化するような、強制によって始まった動機が他の動機に変わっていく可能性もあると思う。
- (委員) 学校の図書の先生との出会いが読むきっかけにもなっている。1、2 年単位で図書の先生が巡回する形になれば、子どもにいろいろな本との出会いがあるのではと思う。学校図書館の人員の増員ができればいいと思う。
- (事務局) それぞれの環境や子どもの性質を考慮すると、全ての学校で同様の取組をすることは難しいため、あえて幅を持たせ、各校の主体性を尊重する書き方をしている。各校の取組内容や協議会等でいただいたご意見は学校に伝えていく。
- (委員) 学校の取組を横断的に実施する仕組みはないのか。
- (事務局) 学校図書担当者会議を年に1、2 回開催しているが、情報共有に留まっており具体的な取組を実施するまでには至っていない。そのため、読書のひろがりにつながる事業を施策の中で取り組みたい。
- また読書のひろがりの中で情報発信の多様化にも取り組むこととしているため、新たな情報発信ツールについては進めてみたい。
- (委員) 絵本が紹介されているリーフレットだが、知らない人も多いし、中身は文字が多く興味を引くような紙面になっていない。
- (委員) こども園などで、保護者同士が絵本の紹介を行う場を設けてもらいたい。
- (委員) 「私の推し絵本」イベントなどがあれば。
- (委員) 「すくすくタイム」について、知らない人が多いので、もっと周知をしてほしい。
- (事務局) (アンケートの結果より)ほとんどの保護者が読み聞かせをしている中で、半数近くが何を読みばいいか迷っているのが現状。これを課題としてとらえていため、こども園などで保護者同士がつながり共有できることは非常に効果があると考える。